

(様式1) 平成 24 年度

1 自己評価及び第三者評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2894200027	
法人名	医療法人社団天馬会	
事業所名	グループホーム天馬	
所在地	兵庫県相生市旭3丁目2-18	
自己評価作成日	平成25年2月6日	評価結果市町村受理日 平成25年5月21日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

①全員の利用者様の外出(20分~60分)を日課としている。②地域との関わりを大切にしながら、買物は毎日職員と2~3名の利用者様で出かけている③外出支援としては、土・日曜日は気分転換を兼ね、車にて外出。また、年間行事として月1回は家族様との時間を大切に過ごせるように参加をお願いし、声かけを行っている(2月:世界の梅公園。5月:和気の藤公園。7月:佐用のひまわり畑などは家族様も参加。)個別支援としても年に数回(例:釣り・墓参り・食事・カラオケステージ)に出掛けている。④健康面は、併設の半田中央病院との医療連携により、継続的な疾病の管理を行っており、急変時もDr.や看護師がすぐ対応している。この医療との連携は利用者様・家族様からも高い評価を頂いている。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 <http://www.kaigokensaku.jp/28/index.php>

【第三者評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

自然光が差し込む明るい家庭的な雰囲気が感じられる。利用者全体の自立度も高く、午前中の散歩は運動を兼ねて、午後の散歩は気分転換で外で過ごすことができるように支援している。傾聴・読み聞かせの地域のボランティアの来訪も増えてきており、地域の方との交流も多くなっている。また、地域の公民館で開催される行事や活動にも利用者が日常的に参加できるように取り組んでいる。「天馬連携勉強会」を法人内で開催しており、地域の事業者・住民誰でもが介護・医療の勉強ができるように開催し地域への貢献を法人全体で行っている。母体の医療機関と協力体制が整っており、日常的な健康管理や緊急時対応は整っている。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 H.R.コーポレーション	
所在地	兵庫県西宮市松風町2-5-107	
訪問調査日	平成25年2月18日	

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 ○ 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および第三者評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	第三者	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	月1回の全体会議の冒頭で職員が毎回交代で口頭で読み上げ再確認をしている。常に「利用者様にとっては」と言う事を話し合っている。	月1回の全体会議の席で理念について話し合いを行い、理念の理解と浸透を図っている。「利用者にとって何が一番良いのか」、「利用者同士が仲良く暮らせるのは」と利用者中心に日々の生活を考え理念を活かして支援している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	昨年度より、3～5月のボランティアの方が来て下さり、地域の方々との交流が毎年増えて来ている。また、毎日近所に買物に出掛け、顔なじみができている。	毎日、朝・夕の散歩に出かけており、散歩コースで出会う近隣の方とは挨拶を交わしている。傾聴・読み聞かせの地域のボランティアの来訪も増えてきており、地域の方との交流もふえている。また、他施設への訪問も行い、交流ができるようになってきている。地域の公民館で開催される行事や活動にも利用者が日常的に参加できるように取り組んでいる。地域の祭りにも参加の呼びかけがあり、利用者と共に参加し交流を楽しんでいる。「天馬連携勉強会」を法人内で開催しており、地域の事業者・住民誰でもが介護・医療の勉強ができるように開催し地域への貢献を法人全体で行っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	法人内で医療と介護の勉強会が毎月定期的に行われ、どなたでも参加して頂けるようになっている。		

自己	者 第三	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	二か月に一回定期的に開催し、全利用者様の現状報告・ホームの活動内容・問題点などを話し合いアドバイスを頂き、サービスの向上に努めている。	地域民生委員、家族代表者、相生市職員、地域包括支援センター職員の方に参加してもらい奇数月に開催している。開催時には、利用者状況、事業所の活動状況の報告を行い参加メンバーとの質疑応答を行っている。利用者への対応事例を提示し参加メンバーからの意見を参考にケアに活かしたり、運営推進会での意見を基に運営推進会議で利用者の生活の状況を把握してもらいやすいように会議内容を現在検討している。	運営推進会議は、地域密着型サービスとしての役割を果たすために、地域の人等が事業所の運営を見守り、協力者として助言する機会です。事業所の取り組みや内容や具体的な課題を話し合い、地域の理解と支援を得るための働きかけを期待する。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	困難事例等は、速やかに連絡・相談をさせて頂いている。又、市の研修・勉強会・連絡会にはメンバーとして参加している。	市の職員も参加している地域ケア会議やケアマネジャー連絡会などには参加し、現状把握してもらい意見や助言を受けるようにしている。事業所での課題や問題、困難な事例が生じた場合には市の担当窓口相談を行い助言や指導を受け課題解決に取り組むようにしている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	外部研修は毎年職員交代で参加している。また、マニュアル・内部研修等で職員全員に理解を深めている。	拘束をしないケアを実践している。外部研修には機会あるごとに職員が交代で参加している。兵庫県シルバーサービス事業者協会の開催する拘束・虐待に関する研修にも参加し、拘束についての理解を深めるように取り組んでいる。内部研修でも計画に盛り込み全職員で理解を深めている。利用者の安全性を考え階段につながるドアは施錠している。家族から拘束の希望があったが、市にも相談し拘束をしないケアの実践の勧めがあり家族と共に話し合いを行い拘束をしないケアの提供を行っている。	日々のケアの中で起こる可能性のある事例について全職員で検討・話し合いを行い、拘束をしないケアの実践の徹底を図る取り組みが望ましい。

自己	者 第三	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7	(6)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	外部研修は毎年職員交代で参加している。また、マニュアル・内部研修等で職員全員に理解を深めている。	兵庫県シルバーサービス事業者連絡協議会の開催する虐待の研修に参加し、虐待の範囲についての理解を深めている。	内部研修の機会を活かして、日々のケアの中で虐待につながりそうな事例場面の検討や話し合いを行い虐待への理解をより深める取り組みを期待する。
8	(7)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	外部研修は毎年職員交代で参加している。また、マニュアル・内部研修等で職員全員に理解を深めている。	外部で開催される研修に参加し理解を深めると共に、内部研修でも全職員が理解を深めるように取り組んでいる。現在制度の利用をされている方がある。	今後も学ぶ機会を持ち、利用者が制度の利用の必要性や希望がある時には、速やかに制度利用へとつなげる支援を図る取り組みを期待する。
9	(8)	○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	見学・申し込みに来られた際には、ホーム内の案内・パンフレットでの説明・実際に利用者様がおられるフロアで様子を見て頂く。また入所前には「契約書」「重要事項説明書」に基づき説明した上で双方で内容を確認し、納得の上で署名・捺印を頂いている。	契約書・重要事項説明書の内容の項目に沿って説明を行い理解と納得を得るようにしている。グループホームの利用が困難な状態についても具体的な内容を分かりやすい言葉を用いて説明を加えて理解を促し、契約書・重要事項説明書の内容にない、「利用料金」等に関しては特に分かりやすいように説明している。契約書・重要事項説明書の内容に変更が生じた場合には、変更部分のみを書面化し差し替えを行うようにしている。	

自己	第三者	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
10	(9)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入口には、苦情・相談箱を設置している。運営推進会議にも固定したメンバーではなく、毎回交代で家族様に参加して頂いて、市・包括・民政委員の方々との意見交換の場がある。また、家族会を年数回設け、職員との交流の場を設けている。	3カ月に1回程度開催している家族会や毎月の行事への参加時、ケアプランの見直し時などに家族からの意見や要望・不満を聴取する機会となっている。普段の面会時にも声かけを行い家族から意見や要望が出しやすいように配慮している。「グループホーム天馬便り」「毎日のご様子」「〇月のお知らせ」をご家族の方に渡し、家族が日々のご利用者のご様子を把握してもらいやすようにしている。	家族から出された意見や要望などは、全職員が情報を共有し、運営やサービスに速やかに反映させる取り組みに活かせるように書面に残すことが望まれる。
11	(10)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回の全体会議には法人からも参加があり、職員の意見・提案を聴き、法人からの意見・提案も取り入れている。また、気づきがあれば些細な事も連絡帳に誰でも記入し、意見も記入している。	ケア会議・全体会議を毎月実施しており、会議の際に職員は意見や気づきを提案し、検討・話し合いを通して運営やサービスに反映させている。会議以外に全職員が業務に入る際に確認する連絡ノートでも、職員の意見や提案・気づき・会議で議題に挙げたいことなどを記載し情報共有を行い速やかに検討・反映ができるように取り組んでいる。会議での検討結果については、業務日誌や連絡帳に明示し職員への周知を図るようにしている。個別にも管理者へ相談できる。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年2回の人事考査があり、自己評価に基づいた個人の努力や課題を明確にし、意欲を引き出すようにしている。給料水準の引き上げや休憩時間、有給休暇など取りやすい環境へ改善され、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の設備に努めている。		

自己	第三者	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修には、職員のスキルに合わせ全員が受講し、その研修後に内部研修として全員が勉強できるように努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	近隣のGh(5施設)と合同研修会・他Ghへの実習・管理者間の交流を定期的に行い、質の向上に努めている。		
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前には、家族様と共に見学・面談に来て頂き、ゆっくりと時間をかけ生活歴を初め、利用者様の気持ち・要望・想いを受け止める事に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所前には家族様と共に見学・面談に来て頂き、ゆっくりと時間をかけ家族の不安・心配事を聞いている。また、入所初期は様子がよくわかる様に些細な事も報告・相談させて頂いている。		

自己	第三者	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人様と家族様がいま置かれる状況を的確に把握し、その時に必要としていることを支援できるようにしている。必要に応じて、法人内外の他のサービスや機関への連携も行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	「一日の担当表」があり、朝食後の清掃からはじまり、散歩・買物・食事の準備・洗い物・洗濯物等、職員と共に生活を送り、助け合う関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	年間の「行事計画予定表」を家族会にて事前に説明し、月1回は参加して頂けるように声かけしている。また、ホーム便りにて個々の写真も添付し、利用者様の普段の生活をより身近なものとして感じて頂けるようにしている。		
20	(11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	個別支援として、昔馴染みの喫茶店に出掛けたり行きつけの理美容室、墓参り等の送迎を行い、入所前と変わらず継続できるようにしている。	知人や友人などの来訪があれば気持ち良く面会してもらえるように配慮している。馴染みの喫茶店や理美容院、墓参りなど利用者の希望に応じて送迎を行い関係継続できるように支援している。利用開始後に地域に出向いで出来た馴染みの関係も継続できるように外出の機会を持ち支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	散歩・外出・レク等、常に5～6名で行動される事が多く「皆は、どこにいったの？」と言葉が出てくる程、休息以外はフロアーや戸外で仲良く過ごされている。		

自己 者 第三	項目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22	○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所や入院された後も、面会に行ったり病状を尋ねる等、常に関わり家族様の相談や支援を行っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	(12) ○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者の生活史・好み・習慣等から「出来る事・出来ない事」等を把握し、日常の会話で気になった事や仕草も日誌に残し全職員が把握できるようにしている。また、意思表示が困難な方には、家族からの情報を大切にしている。	昼間は必ず2名はフロアで利用者に関わるようにしており、細やかに利用者の動きや表情を見て寄り添い利用者の思いや意向・希望を聞きとるだけでなく、思いや意向・希望を引き出すように関わりを持ち感じとるようにしている。把握できた利用者の思いや意向・希望は、口答で伝えるようにしている。	把握できた思いや意向・希望は、口答で伝え共有するだけでなく、記録として残し情報を共有し今後の利用者への支援へ活かすような取り組みが望まれる。
24	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所前の面接時に家族様と数回にわたり生活歴や嗜好を聞いている。また、入所前に家族様にセンター方式を手渡し、記入出来るところは記入して頂き、全職員が把握できるようにしている。		
25	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	支援記録に細かく記載し、業務日誌にも個々に一日の特記事項としての欄があり、全職員が出勤前に目を通す事になっている。		

自己	者 第三	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月のケア会議にて、生活の中からの課題をスタッフ全員で話し合い、気付きや意見を取り入れている。また、家族様来訪時にも意見・要望を尋ねたり、メールができる家族様とはメールでも連絡を取り合って情報の交換をしている。	生活援助プラン表の項目に従って利用者の状況をアセスメントし、施設サービス計画書を作成している。毎月行動実施表とモニタリング表でモニタリングを実施し、変化がなくても6カ月毎には評価見直しを実施している。行動実施表では計画の中に明示されたケア項目・援助項目に沿って日々具体的な計画に沿った実施ができているか確認している。支援経過記録(ケース記録)には、利用者の生活の状況や動き・観察したことが記載されている。	利用者の状態や状況の情報の共有を十分にできているが、記録の管理責任者を明確にすることが望まれる。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別支援記録・業務日誌・受診記録・行動実施チェック表等、個々に作成し、関わった職員が毎日記録し、毎月のモニタリング時に見直し、介護計画の見直しに生かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者や家族の状況、要望に応じて「その人らしい生活」が送れるように個々のペースに合わせた支援を行っている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域のボランティアの皆さまには3～5回/月のご協力を得ている。また、市民会館の催しもの・図書館・毎日の朝の日課の神社へのお参り等、地域の皆様との交流を楽しんで頂いている。		

自己 者 第三	項目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	(14) ○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	母体が医療法人であり、医療面で安心出来ているという家族様が多く1回～2回/月、主治医の受診を受けている。受診が必要な時には職員が付き添っている。また、利用者によっては他院への受診もあり、通院も支援している。	支援経過記録の書式で利用者一人ひとりの受診状況を明記し、利用者の状態・病状等についての情報共有ができるようにしている。利用者の病状や疾患により家族に受診支援をしてもらうこともあるが、母体の医療機関への受診や他の医療機関への受診は職員が支援するようにしている。緊急時や夜間は隣接する母体の医療機関へも速やかに受診できる体制が整えられている。夜間で職員が一人の時には、医師・看護師が往診にも来てもらえる体制が整えられている。高齢者の検診も家族に声かけして受診票を持参してもらい検診を受けることができるようにも支援し健康管理を行っている。隣接の医療機関の看護師へも相談できる体制もある。	
31	○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	医療連携により、24時間体制で報告・連絡・相談がとれるようになっている。また、急変時も素早い対応が出来る。	/	
32	(15) ○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院された時も常に面会に行き、家族様と話し合い早期退院に努めている。また、退院後のケアについても細かく病院側(看護師・リハビリ療法士・管理栄養士)から指導を受けている	入院された場合には、普段の状況や状態は医療機関へ情報提供を行い速やかに適切な医療・看護を受けることができるようにしている。入院中には、面会に行き馴染みの関係継続を行い利用者の状態の把握を行うようにしている。退院時には、サマリーで情報提供を受け、もとの生活に戻ることができるように支援している。	

自己	第三者	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	(16)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化・終末期については契約時に説明と同意を得ているが、御家族との面会の際にも、話し合いの機会を多く持つようになっている。	重度化・終末期に向けた方針については、契約時に説明を行い同意を得るようにしている。医療の必要性が高くなれば医療機関への入院の説明と納得を得ている。利用者の状態や状況の変化に応じて家族には、意向の確認を行い、意向に沿った支援ができるように取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	併設の病院内にて毎月開催される勉強会や消防署の救急蘇生やAEDの講習を受けている。また、緊急マニュアルはいつでも確認できるようにしている。		
35	(17)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	母体病院と共に、年2回の消防・非難訓練を行っている。警察署にても災害時の対応について講習を受けたり、民生委員の方にも災害時の応援を依頼している。また、GH独自で非難訓練を実施している。	隣接する医療機関と共に年2回消防・避難訓練を実施している。避難経路・消防設備の設置場所など図式化しており職員は確認できるようにしている。また、消防設備の設置場所や避難経路など消防署の指導を受け、現状にあった整備に取り組んでいる。事業所独自でも避難訓練を利用者と共に実施している。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(18)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個人情報・プライバシー保護の外部研修は参加し、内部研修にて全職員へ周知を図っている。また、入浴・排泄時の介助にも声かけに気を付け、職員同士でもお互いに注意できるように努めている。	入浴や排泄に関しては、原則同性介助をするようにしているが、利用者の安全性や好みに合わせるようにしている。内部・外部研修で利用者のプライバシーや尊厳について定期的に学ぶ機会を持つよう取り組んでいる。	日々のケアの振り返りを通して、身近な具体的なプライバシーや尊厳を大切にケアの提供について話し合いを行い周知徹底を図る取り組みが望まれる。

自己	者 第三	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者様との個別な関わりの時間を作り、会話や表情の中から想いをくみ取るようにしている。コミュニケーションがとりにくい方は、筆談・ゼスチャー等で対応し、理解して頂けるように努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日に流れは大まかに決まっているが、レク・散歩・買物等その都度声かけさせて頂いて、本人の意思を尊重しているが、自分でペースを作れない方には体調・表情をみて職員がつくる場合もある。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	起床時に季節や気温に応じて、職員と一緒に日常着を選んでいる。職員と一緒に洋服を買いに行かれる方も多し。又、訪問の理美容が安価である為、利用される頻度は多く、馴染みの理髪店・美容院にも行かれる方もおられる。		
40	(19)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	職員と一緒に毎日、「買物」「料理」「片付け」「洗いもの」等、個々の能力に応じた役割がある。食事のメニューも毎日利用者様と買物に出掛けているので、買物中に食べたい物や旬の食材等があれば、変更し、柔軟に対応している。	利用者一人ひとりの希望や能力に応じて買い物、下ごしらえ、調理、後片付けなど、役割を持って支援している。食事の献立も利用者の希望を重視して、季節感のある献立と旬の食材にこだわり手作りで提供している。職員と共に食卓を囲み楽しい食事時間を過ごしている。お寿司をとることもある。食事摂取量、水分量も記録し健康管理に努めている。食事摂取状況も利用者の自立度は高い。	

自己	者 第三	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量・水分量は毎日チェック表に記入し、栄養状態の観察や脱水症状が起きない様に努めている。また、献立を管理栄養士にチェックしてもらい、バランスのとれた食事に心がけている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアを支援している。また、自歯がある方は歯科受診し、定期的にブラッシングにも受診している。		
43	(20)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を確認し、それぞれの排泄パターンを把握できるように努めている。また、自尊心を損なわない誘導の声かけに留意している。	散歩前などには排泄の声かけを行うが、その他は利用者の排泄のパターンに合わせて声かけや誘導を行うようにしている。失禁などがあれば他の利用者に分からないように自室で更衣してもらえるように支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事・水分摂取量を毎日チェックし、食材の工夫・散歩・体操等を取り入れる事で、出来るだけ下剤に頼らない自然な排便習慣がつくように心がけている。		
45	(21)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	利用者様の希望を確認しながら、毎日入浴される方・夜間入浴の方・日中に入られる方と様々であるが、少なくとも3回/週は入浴して頂いている。	利用者の希望に沿って入浴しているが、2日に1回入ってもらえるように支援している。希望があれば毎日でも入浴することができる。利用者のできること・できない事を把握し利用者個々に合わせた個別の支援を行うようにしている。以前は夜間入浴の希望が多かったが、夜間に入浴を勧めると疲れを訴え入浴されない事が増えてきたので昼間の入浴を実施始めている。	

自己	者	第三	項目	自己評価	外部評価	
				実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46			○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	就寝時間は特に決まっておらず、日中の活動量・夜間の睡眠状態を考慮し、その人に合わせた休息をとって頂いている。日中も、昼食後は全員の方に休息の声かけを行っているが、本人の意思を尊重している。		
47			○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	「薬の説明書」「検査報告書」「受診記録」を一緒にファイルし、一目で関連付けて把握できるようにしている。また、定例薬の変更・臨時薬などは、業務日誌・ファイル等にて申し送りを徹底する。		
48			○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	「一日の担当表」を毎日見ながら、本人の得意な事・出来る事を継続できる事で、自信と皆の役に立っているという喜び・張り合いを感じて頂けるように支援している。		
49	(22)		○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	毎日、全員の利用者様に20分から60分の外出支援ができています。また、土・日曜日には気分転換も兼ね、車にて出掛けている。年間行事の外出には家族様も参加して頂いている。	利用者全体の自立度も高く、利用者の中には午前・午後と2回散歩される方が多い。身体状況や気候に配慮しながら、散歩は午前中の散歩は運動を兼ねて、午後の散歩は気分転換で外で過ごすことができるように支援している。食事の食材の買い物にも職員と出かけている。計画的な外出行事やドライブに出かけるなど、戸外に出かける機会を多く持っている。	
50			○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的には立替金として施設側が準備し、必要な物・好きな物を買って頂けるようにしているが、自己管理が可能な方・家族に紛失の了解を得ている方には本人様の意思を尊重し、お持ち頂いている。		

自己 者 第三	項目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	事務所の電話をいつでも使用したい時に使用して頂いている。		
52	(23) ○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	フロアー・廊下等には写真や作品・花等を飾り、季節感を感じて頂けるようにしている。	自然光が差し込む明るい共有空間の壁面に季節感ごとの外出の写真を掲示して、楽しそうな利用者の様子や季節の移り変わりが感じられる。リビングのテーブル・椅子やソファに利用者は穏やかに思い思いに過ごされている。キッチン是对面式になっており食事準備の様子や食事の匂いからは家庭的な雰囲気を感じられる。廊下のスロープを利用して段差を解消しており、利用者が自然に下肢筋力の低下予防・増強ができるようになっている。	
53	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	フロアー・ホール・廊下にはゆっくりと過ごせるスペースを作っており、テレビを観たり談笑されたりと、どこでもくつろげる空間作りを行っている。		
54	(24) ○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で使っておられたソファ・テレビ等、馴染みの家具を持って来られたり、週毎のレクでの「生け花」が飾ってあったりと、今までの生活スタイルが少しでも維持できるように努めている。	人の気配が感じられる居室は利用者が安全に安心して過ごせる空間となっている。利用者の能力に合わせて室内清掃を支援し、利用者は、仏壇や使い慣れたものを持ち込み利用者の趣味や嗜好を活かした居室空間となっている。	
55	○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	老人車・杖を使用されている方も、見守りの中手すり等を使用し、歩行練習等をして頂いている。また、トイレの表示等もわかりやすくしている。		